

科目名	特殊講義（韓国歴史）	科目コード	1592	単位数	2
担当者名	水野 俊平	開講セメスター	第6セメスター	開講年次	3年次
授業の方法	講義	到達目標	C,F	実務経験	無
ナンバリング	DSp604	DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

● 授業のねらい

韓国の現代史（1945年～現在）の大きな流れ（人名・事項名・年号を含む）を概略的に理解する。あわせて、戦後の日韓関係史の概略を理解する。

● 到達目標

韓国の現代史の概略を学び、南北分断の原因、韓国（北朝鮮）の建国、朝鮮戦争の勃発、戦後の復興と経済発展、民主化運動の高揚、民主化の過程、現在の保守進歩の対立の背景などについて理解する。韓国の歴史関連映画を視聴し、その内容を理解する。あわせて戦後の日韓関係史、特に国交正常化過程について学ぶ。歴史関連韓国映画を鑑賞し、その内容を理解する。

● 授業内容

- 1週目 授業の概要を説明し、教材を配布する。歴史関連映画（1）を視聴し、その内容を理解する。
- 2週目 1945年の「光復」と、「朝鮮民主共和国」、ソ連軍の侵攻、米軍の進駐と「米軍政庁」設置について学ぶ。韓国関連映画（1）を視聴し、その内容を理解する。
- 3週目 朝鮮の分断の原因の一つになった、「光復」に至る前のカイロ・ヤルタ・ポツダム会談における列強の駆け引きについて学ぶ。韓国関連映画（1）を視聴し、その内容を把握する。
- 4週目 1945年の「モスクワ三相会談」と「信託統治」をめぐる賛反、南北分断の予兆になった単独選挙実施・単独政府樹立について学ぶ。歴史関連映画（2）を視聴し、その内容を把握する。
- 5週目 1948年8月の大韓民国樹立の過程、9月の朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）樹立と南北分断、南北における農地改革について学ぶ。歴史関連映画（2）を視聴し、その内容を把握する。
- 6週目 「反民特委」による親日派処罰の失敗、朝鮮戦争の勃発と戦争の推移、休戦までを学ぶ。歴史関連映画（2）を視聴し、その内容を理解する。
- 7週目 李承晩政権下で行われた「抜粋改憲」「四捨五入改憲」と4・19革命を学ぶ。歴史関連映画（3）を視聴し、その内容を把握する。
- 8週目 4・19革命後の第2共和国体制確立から5・16軍事クーデター、日韓国交正常化、ベトナム派兵までを学ぶ。歴史関連映画（3）を視聴し、内容を把握する。
- 9週目 経済成長と「三選改憲」、「10月維新」による維新体制への移行などを学ぶ。歴史関連映画（3）を視聴し内容を把握する。
- 10週目 7・4南北共同宣言、民青学連事件、維新下での「緊急措置」による民主化運動を弾圧などを学ぶ。歴史関連映画（4）を視聴し内容を把握する。
- 11週目 維新体制の確立から10・26政変、12・12クーデターと「ソウルの春」について学ぶ。歴史関連映画（4）を視聴し内容を把握する。
- 12週目 光州事件、新軍部勢力の政権掌握、全斗煥政権の発足、民主化運動の流れなどを学ぶ。歴史関連映画（4）を視聴し内容を把握する。
- 13週目 6・25民主化宣言、87年の大統領選挙と盧泰愚政権の発足、88年の総選挙と「民自党」の結成、北方外交などを学ぶ。歴史関連映画（5）を視聴し内容を把握する。
- 14週目 金泳三政権発足と諸改革、IMF経済危機、金大中政権の発足と南北首脳会談などを学ぶ。歴史関連映画（5）を視聴し内容を把握する。
- 15週目 金大中政権以後、盧武鉉・李明博・朴槿恵・文在寅・尹錫悦まで歴代政権の治績を大まかに見渡す。歴史関連映画（5）を視聴し内容を把握する。1週から15週にわたって学んだ内容（主に韓国現代史）を復習し、その後、試験を実施する。
- 16週目 試験結果を通知し、やむを得ず、15週目までの授業内容を実施出来なかった場合は、補講授業を行う。

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備学修（予習・復習）等の内容 PDFファイルで提供された教材原文（日本語）の内容を参考資料で補充して発表できるように準備する。原文の中にある用語（韓国語）も読めるようにしておく。で準備した内容をGoogleドライブ上に入力する。これが予習に当たり、1時間程度の時間をかけることが望まれる。授業で学んだ内容をもとに年表を作成し、Googleドライブ上の確認クイズを受験する。これが事後学習にあたり、30分程度の時間をかけることが望ましい。

● 成績評価の方法・基準

成績評価の方法：中間試験25%、期末試験25%、授業における発表（課題）20%、確認クイズ25%、映画の確認クイズ5%で評価する。

● 履修上の留意点

与えられた教材原文は必ず参考資料で補充して、発表の準備を行い、韓国語の用語については読める（発音できる）ようにしておくこと。履修に当たっては韓国語科目の履修が前提となる。韓国語を履修せずに本科目を履修する場合、授業参加に相当な困難を伴うので、十分留意すること。映画鑑賞時の着席位置は自由であるが、教材使用時の授業では集中度を高めるため、車座になって行う。

● 課題に対するフィードバックの方法

受講者から提出された教科書の原文はすべて添削した後にGoogleドライブ上にて公開する。確認クイズの点数は学生本人がすぐに確認できるようにする。

● テキスト

チェ・ヨンボム、イ・ウヒョン（2012）『一夜で読む韓国近現代史』（ペーパーロード）を要約して教材として用いる。その他に自家版の教材を用いる。

● 参考書

水野俊平（2021）『韓国の歴史』河出書房新社（2,250円）

● 更新日付

2024/01/29 12:11